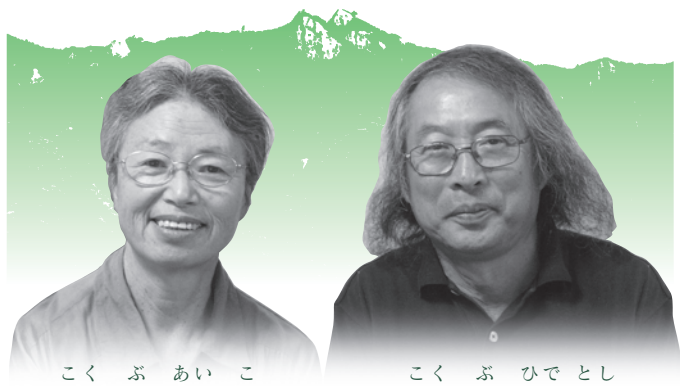


こうほう ショッキング

Vol, 78

Kōhō shocking



こくぶ あいこ
國分愛子さん
(66歳)

こくぶ ひでとし
國分英俊さん
(66歳)

●プロフィール

お二人とも厳原町今屋敷出身で、幼なじみ。英俊さんは高校卒業後、大学生活のため4年間東京で過ごし、帰郷。愛子さんは高校卒業後、福岡の短大に進学し卒業後4年間働き、帰郷。24歳で結婚。中学校教諭だった英俊さんの最初の任地は、上県町伊奈。教諭生活の間、島外勤務は佐世保の4年間のみ。豆酩中学校校長を最後に退職。英俊さんは幼い頃から山と親しみ、対馬の植物を見続けている。愛子さんは、子どもの頃から茶道に親しむ。自宅での茶席には愛子さんが表装した掛軸、英俊さん作の茶碗が用いられることも。「人の3倍くらい遊んで楽しんでいる」と英俊さん「花の世話をしている時が一番楽しい」と愛子さん。

○対馬のあらゆることに造詣が深い英俊さんですが、やはり一番の興味は植物でしょうか。

英俊(以下、英)：そうですね、対馬の山のどこにどんな植物が生えているか、だいたい分かります。白嶽や龍良山は特に好きです。御嶽もいいですね。景色ももちろんですが、生えている植物がおもしろいです。植物を見に来る学者も多いですが、やはり白嶽に行きますね。もちろん、そのような場所での植物採取はしません。観察だけです。信仰上大切な場所として守られてきたこともあり、自然が残っているんですね。

○秋は野鳥の渡りの時期でもありますか。

英：9月のアカハラダカの観察会にも行きましたが、そのような時は妻が皆さんのためにお弁当を作ってくれますよ。

愛子(以下、愛)：おにぎりですけどね、毎年作って持って行くんです。以前、上見坂で出会った方が、お店がなくて昼食の調達に困っていたことがあって、おにぎりをたくさん持って行ってたら、そんな方にもお分けできるでしょ。そうしておすそ分けしてたら、去年もいただきました。

したっておっしゃる方もいたり。○おにぎりを通じた心の交流、ですね。

愛：本当に。人と人との繋がりを大切にしたいなと思って。そこからお友達になって、遊びに来られれば一緒に山にもついで行って、帰宅したら料理でもてなして。対馬の料理ですよ。それが島外の人にとってはごちそうですから。私たちも、島外の話が聞ける良い繋がりで。

○愛子さんは子どもの頃からお茶を楽しまれるとか。

愛：昔はお茶や琴のお稽古をしている人が多かったですね。男性もお茶を習っていました。実家では祖父や父もお茶をしていて、お正月には父がお茶を点ていたほどです。お茶席にあるのは、人へのもてなしの心。今日の客のために道具を選び、花を生け、料理を準備する。思いや心、いろいろなものが回り巡るひと時ですね。

○対馬のさまざまなものを見てこられて、憂いと期待は？

英：まず、伝統文化の消滅が心配です。盆踊りや地域の行事がなくなってきたのが残念。昔の知識を持っている人が亡くなるうえに記録がないのが残念

です。文化と同じく、言葉が絶滅してきています。豆酩弁などこの何十年かの間に消えてしまおうとしています。対馬は自然がいっぱいと言うけれど、山の中は鹿やイノシシが植物を食べてしまい、草が生えていない状態。先日は延喜式に出ているお宮29社を巡りましたが、田舎のお宮は氏子も減って維持ができず荒れた所もありました。早くしないと、あと10年もつたろうか：知恵を持った人が今ならまだいる、そのうちに記録を残さなければ。そういつた点では、私は新しい博物館に期待していません。今は、いろんな所から対馬に来た人が、うちで情報を得て島内の目的地に向かっていきます。博物館が、その情報収集の拠点としての働きを担ってくれ、完成すれば、私の集めた情報や資料も、その働きの助けにしたいと思っています。

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いただくこのコーナー。次回は峰町佐賀にお住まいの兵頭順子さんです。お楽しみに。